

◆「『ほっかいどう学』の学びを考えるシンポジウム2018

～ Let's learn Hokkaido ～ を開催しました。

- ◆平成28年3月に閣議決定された「第8期北海道総合開発計画」は、本格的な人口減少時代にあっては、自ら考え地域づくりに取り組む地域の担い手を育成、確保することが重要であると、地域に関する理解と愛着を深めるために「ほっかいどう学」を促進することが盛り込まれました。
- ◆有識者の方々による基調講演や事例報告のほか、多様な学びの場における「ほっかいどう学」の展開に向けてご提言をいただくパネルディスカッションを通じて、「ほっかいどう学」の更なる推進を図り、地域づくり人材の発掘・育成に資することを目的として、「『ほっかいどう学』の学びを考えるシンポジウム2018～Let's learn Hokkaido～」を開催しました。

シンポジウムの概要

(日 時) 平成30年3月14日(水) 13時30分～16時30分
 (場 所) 札幌エルプラザ 3階ホール
 (主 催) 国土交通省北海道開発局、(一財)北海道開発協会
 (後 援) 北海道、北海道教育委員会、札幌市教育委員会、北海道社会科教育連盟、札幌市社会科教育連盟、(公社)土木学会北海道支部
 (参加人数) 約130人

プログラム

- ◆主催者挨拶 北海道開発局開発監理部次長 倉内 公嘉
- ◆事務局報告 北海道開発局開発監理部開発調査官 遠藤 昭彦
- ◆基 調 講 演 小樽商科大学グローバル戦略推進センター研究支援部門 地域経済研究部学術研究員 高野 宏康 氏
- ◆事 例 報 告 札幌市立屯田北小学校教務主任 朝倉 一民 氏
- ◆パネルディスカッション
 (パネリスト) 高野 宏康 氏、朝倉 一民 氏、札幌市立屯田小学校校長 新保 元康 氏、札幌国際大学観光学部教授、NPO法人炭鉱の記憶推進事業団 理事長 吉岡 宏高 氏
 (コーディネーター) (一財)北海道開発協会 開発調査総合研究所 理事・所長 草刈 健 氏



主催者挨拶

○高野 宏康 氏

基調講演

「北前船と北海道～北海道のルーツと北前船の遺産～」

- ▶ 北前船は本州からの視点で語られることが多いが、実は北海道のルーツに深く関わっている。
- ▶ 明治以降、人口急増などを背景に北前船主の北海道進出が増え、莫大な資金の投下により倉庫業や銀行、北洋漁業など北海道の企業勃興に寄与
- ▶ 北前船を切り口として北海道の歴史を振り返ることにより、北海道のルーツを改めて学ぶことができる。

○朝倉 一民 氏

事例報告

「札幌らしさを学ぶ小学校における雪学習の推進～雪のカリキュラム・マネジメント～」

- ▶ 例えば、社会科の授業で、教科書に載っていないことについて学ぶとする場合には、オリジナルの資料(=副読本)が必要。資料を用意しなければ(その授業を)普及させていくことは難しいし、資料があれば後に続く先生もやりやすくなる。
- ▶ 「ほっかいどう学」を学校現場で実践していくためには、教育課程にしっかりと位置づけることが必要



事務局説明



パネルディスカッション

草刈 健 氏

- ▶ “雪”一つとってもたくさんの見方がある。授業で展開する際には、子どもたちに“どうして?” “調べてみたい”と思わせるきっかけを与えることが必要(朝倉氏)
- ▶ 「ほっかいどう学」を広げるためには、小学生に学んでもらうこと、みんなで教材群を作っていくことが大切である。(新保氏)
- ▶ 歴史を学ぶ際には、単に固有名詞や年表を覚えるのではなく、シオラマや食べ物などの素材を活用して歴史を体感することが大切(高野氏)
- ▶ 現代の豊かさをもたらしたものは何かを学ぶことが必要。北海道においては“北前船”や“炭鉱”は必修科目である。(吉岡氏)
- ▶ 北海道は本格的な開拓が始まってからわずか150年だが、その密度は非常に濃い。その濃い歴史を水に溶かして客観的な視点で学ぶことが必要(草刈氏)